

血管内治療 Interventional Radiology

経皮的または直視的に血管に挿入されたカテーテルをかえして血管内から治療を行う手技のことであり、主な手技として次のような治療が行われています。

血管塞栓術

カテーテルより金属製コイルやゼラチンスポンゼルといった塞栓物質を目的血管に入れ、血流を閉ざす治療法で、主な症例として肝細胞癌に対して栄養血管となる血管に抗癌剤を注入する化学療法とともに栄養血管を塞栓させ癌を壊死させる治療法、脳動脈瘤に代表される血管のこぶに金属コイルを入れ込み血圧による血管の破裂を予防する塞栓治療があります。

検査時間

2時間程度です。

血管形成術

経皮的に血管内より風船付きカテーテルで狭窄部を広げることによって血液の流れる内腔を確保する治療法です。さらに再狭窄予防として金属による内貼りをするステント留置術があります。

検査時間

1～2時間です。

ステントグラフト内挿術

胸部大動脈、腹部動脈にできた瘤に対して開腹することなく、経皮的に血管内よりP T F E等の膜で覆われたステントを内挿することにより血管が破裂するのを予防する治療法です。

検査時間

3時間程度です。